

講師の方へ:

- ・知識を教えるときは、ご自分の経験をもとに、**例を豊富**にお話してください。相手は、理解しようという向上心のある方々です。少々説明がヘタでも、例が豊富なら、なんとか理解していただけます。
- ・方法を教えるときは、**一つの方法に絞って**ください。親切心から、いくつも紹介すると、往々にして、それぞれの方法を切れ切れに理解し、それを繋ぎ合わせてしまい、かえって混乱を招きます。一つの方法を完全に理解した方にだけ、他の方法を紹介しましょう。
- ・空白の時間を作りましょう。相手があなたの言ったことを咀嚼する時間がないと、教えようとするあなたの努力はすべて水の泡になります。内容を租借しようとしても、講師が何か言っているとどうしてもそちらに注意を奪われ、それがたとえ関連することを言っている、自分自身で考えることができなくなり、内容を理解しないまま、つぎの項目の説明に突入します。“何も言わない”時間を適宜取りましょう。
- ・字句の説明に留まらないで、なぜこれは便利なのかという具体例や実例は、**ご自分の実体験**でお話してください。知識として聞いたものをそのまま話そうとすると、伝言ゲームになる可能性が高く、情報が欠落し、インパクトがなくなり、「～～だそうだ。」式の説明になり、項目の必然性がなくなってしまいます。実体験で内容を理解していない項目は、飛ばしましょう。
- ・大半の方に内容を理解していただくためには、どのようにすればいいか、は、大変悩むところですが、参考までに、学校の教師が目指す授業程度の目標をご紹介します。義務教育での学習結果の評価は、相対評価から、絶対評価になってきましたが、5段階評価のころ、「2の子がわかるように、授業をすること。」というのが至上命令でした。5と1はそれぞれ5%、4と2はそれぞれ20%、3は50%というのが、標準の採点割合でしたから、2の子が分かれば、大半の子がわかるということになります。
- ・ときどき自分の言ったことを理解していただいているか、確認しましょう。確認はさりげなく、方向を変えて聞きましょう。「～～は分かっていますか。」という**絞切り型の言い方は、避けます**。人生の経験者は、分かっているなくても、一生懸命に教えている講師に対して、がっかりさせないために、「・・・ハイ。」と応えてくださることが多いからです。
- ・一度聞いて分かる人はいません。私は、ある一流大学の先生から、「英単語は、7回引くと覚えますね。」と言われたことがありました。さて、一般人の我々は、何回聞いたら覚えるでしょうか。・・・ということになると、講師としては、同じことを**7回は説明しなくてはならない覚悟**でいてください。
- ・相手のパソコン経験に応じて、話しましょう。自分の知っていることをなんでもしゃべりたがる講師がいます。これは、“教える”のではなく、“しゃべりたがっている”だけ、つまりは“知識を披露したがっている”だけです。教えるということは、**相手の理解程度にあわせて対応する**ということです。知識を披露しても、相手は理解しません。講師をする人はもともと知識のある人という認識がありますから、どんなに知識を披露しても、講師としての評価が高まることもありません。
- ・聞いているだけでは覚えません。関連することを**作業**してもらいましょう。ノートを“確実に”とってもらう、復唱して声に出してもらう、などやり方は工夫しましょう。
- ・ノートの取り方は、難しいです。いきなりノートを取り出すと、話が先に進むのに合わせて手を動かすことはできません。どこを書き留めればいいのか、のポイントは2度説明し、**2度目に書き取ってもらう**ようにしましょう。